リリース判定メモ・シナリオ結果表の様式

実行結果と未検証範囲、残存リスクをつなぐ記録

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

検証の範囲と結果を追跡できる様式で残し、リリース会議での判断と後続の条件を記録します。

リリース会議を準備するQAリーダー、製品責任者、検収の発注担当者

目次

01 判定の対象と範囲を記録します 3

02 シナリオの定義と実行結果をつなぎます 4

03 欠陥と確認できなかった領域を分けます 5

04 残存リスクを条件に置き換えます 6

05 判定と検討の記録を残します 7

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

判定の対象と範囲を記録します

リリースメモは、対象、合意範囲、シナリオ結果、確認できなかった領域、残存リスク、判定・検討記録で構成します。ビルドの識別値と環境がなければ、以前の結果が今回の出荷に当てはまるかを判断しにくくなります。

リリースメモの基本情報

項目	記録内容	関連文書・識別値
製品・リリース名		
候補ビルド・バージョン		
検証期間・環境の組み合わせ		
主要フロー・シナリオ範囲		
除外範囲・再テスト条件		
合意した出荷基準		

記入例

製品：注文管理Web。対象：release-2026-09候補ビルド。範囲：注文の作成・照会・取消。環境：合意したデスクトップブラウザ。除外：管理者統計の改修。実際に記入するときは、バージョン・環境・基準文書の識別値を併せて残します。

ビルドが変わったら、既存の行を上書きするのではなく検証の実行回を追加します。シナリオと欠陥、証拠には固有の番号を付けます。各番号をたどれば、誰がどの条件で何を確認したのかを追跡できます。

シナリオの定義と実行結果をつなぎます

シナリオの定義には、事前条件と手順、期待結果を書きます。実行記録は同じシナリオ番号で結び付けます。別の人が同じアカウントの役割とデータ条件で再実行できるほど具体的に記述します。

シナリオ定義表

番号・主要フロー	事前条件	実行手順	期待結果
記入例：TC-01 / 取消	決済完了のテスト注文	注文詳細で取消を要求	取消状態と金額が一致

シナリオ実行表

シナリオ・実行回	状態	欠陥・証拠番号	実行者・日時

状態	記録の基準	併せて残すもの
PASS	期待結果と一致	実行環境と証拠
FAIL	期待結果と不一致	観察結果と欠陥番号
BLOCKED	先行条件のため実行不可	ブロック理由と解決担当
NOT RUN	計画したが実行していない	未実行の理由と次の予定

BLOCKEDとNOT RUNは、PASSにもFAILにもまとめません。再テストでは最初の結果を消さず、実行回を追加します。合格率を示す場合は、分母が計画全体なのか実際の実行分なのかを併せて表示します。

欠陥と確認できなかった領域を分けます

発見した欠陥は、期待結果と観察結果が食い違った記録です。確認できなかった領域は、検証の根拠がまだない記録です。二つの一覧を分けてこそ、修正すべきことと実行の準備で解決すべきことを別々の担当に渡せます。

欠陥台帳

欠陥・シナリオ番号	重大度・ユーザー影響	再現条件・証拠	担当・対応状況
記入例：DEF-01 / TC-01	高 / 取消金額の不一致	部分取消後に注文を照会	担当指定・対応検討

未検証範囲の記録

領域・シナリオ	区分・理由	解決担当	次の確認条件
記入例：外部通知連携	BLOCKED / テストアカウント未発行	連携担当	アカウント発行を待って再実行

重大度は修正の順序と区別します。データ損失、金額の誤り、主要機能の停止などユーザーへの影響を先に書き、対応の優先順位は日程と回避手段を併せて検討します。合意範囲の外にある項目には、除外の理由と、次に範囲を検討する時点を書きます。

> **再現資料のひも付け**
>
> 画面キャプチャやログだけを残さず、ビルド・環境・シナリオ番号をひも付けます。アカウントのパスワードと個人情報の原文は結果表に入れず、証拠の共有範囲に合わせて扱います。

残存リスクを条件に置き換えます

残存リスクには、まだ修正していない欠陥と未検証の項目が出荷にどう影響するかを書きます。欠陥番号を繰り返し書くだけで終わらせず、発生条件、回避手段、観察するシグナル、再び判断する条件を結び付けます。

残存リスクの記録

リスク・関連番号	発生条件・影響	回避・観察の方法	担当・再判断の条件
記入例：取消通知の遅延	外部通知の遅延時に状態の反映が遅れる	サーバー照会で状態確認	運用担当 / 状態の不一致が発生したら検討

出荷条件の履行表

必要な条件	確認時点	履行担当	完了の証拠・検討

出荷前に完了すべき条件と、出荷後に観察する項目を分けます。前者は、完了の証拠を検討するまで未完了のままにします。後者には、誰がどのシグナルをいつ確認するかを書きます。担当や確認時点のない条件は、実行計画として使えません。

> **判定に必要な問い**
>
> 現時点で検証できていない領域に主要フローは含まれますか。回避手段を実際に確認しましたか。条件を履行できなければ、どの時点で誰と再び判断しますか。答えは同じメモに残します。

判定と検討の記録を残します

判定は、シナリオ結果と出荷基準、未検証範囲、残存リスクを検討したうえで記録します。様式を配布するときは、判定欄と署名欄を空のままにします。記入例の結果や他のプロジェクトの署名を、実際の検収記録として使いません。

判定	意味	必須の後続記録
READY	合意した出荷基準を満たす	検討したビルド・根拠文書
READY WITH CONDITIONS	記録した条件を前提に進行	条件・担当・確認時点
HOLD	現在の根拠では出荷を保留	解決項目・再検証・再判断の条件

リリース判定・検討記録

項目	記録	日時・証拠
判定		
判定の根拠・残る条件		
作成者		
検討者・署名		
出荷承認の記録		
再判断するビルド・条件		

作成者、検討者、出荷承認担当は、プロジェクトの役割に合わせて指定します。同じ人が兼ねる場合も、役割ごとの記録は残します。報告書、結果の元データ、欠陥台帳、証拠をひも付けたまま保管すれば、次のリリースでもこれまでの判断を引き継いで検討できます。

発行・ご利用について

候補ビルドと判定基準を合意し、シナリオ結果から残存リスク、再判断の条件まで文書で提供します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/pre-release-qa

www.ixc.co.kr/ja/assets/quality-evidence

参考資料

IXC リリース準備度レビュー：判定と成果物

https://www.ixc.co.kr/ja/services/pre-release-qa

ISTQB CTFL v4.0.1：トレーサビリティ・欠陥管理・完了報告

https://istqb.org/wp-content/uploads/2024/11/ISTQB_CTFL_Syllabus_v4.0.1.pdf